会計報告

収入	円	支出	円	
1. 研究費（学会より48年度）	30,000	1. 図書購入費	7,320	48年度
2. 研究費（学会より49年度）	30,000	2. アンケート郵送費（40円×300通）	12,000	〃
		3. アンケート用封筒代	660	〃
		4. 研究会ゴム印およびスタンプ台	3,220	〃
		5. 講演謝礼（商工中金 米沢成彬氏）	5,000	〃
		6. 連絡通信費	4,090	〃
		7. 文献図書類購入費	8,080	49年度
		8. 資料印刷費	6,130	〃
		9. 連絡通信費	8,500	〃
		10. 会場費（500円×10回）	5,000	〃
合計	60,000	合計	60,000	

部会だより

システム・ダイナミックス研究部会

1. 月例研究会

本研究部会は昭和48年9月に発足，51年3月まで継続を認められたが，『経営科学』第18巻第2号(1974年3月)の「部会だより」以後50年3月までの月例研究会の報告は次のとおりであって，部会員の報告のほか，渡辺一司，合田周平，公文俊平，坂倉省吾の各氏に講演をお願いした．

49年

2/21 SDの基本問題について
渡辺一司（光洋精工）

3/28 SDの意義と限界
合田周平（電通大）

4/18 会員討論 栗原宏文（東亜燃料工業），佐々木良一（日立），冨田 潔（味の素），斉藤雄志(電力中研)

5/16 SDにおけるシステムの概念
公文俊平（東大）

6/20 たばこの世界モデル
大沢 光（たばこ総研）

7/18 年金シミュレーション
島田俊郎（明大）

8/15 プロセス制御へのSDの応用
栗原宏文（東亜燃料工業）

9/19 ドル・ショック下の企業行動モデル
冨田 潔（味の素）

10/24 CSMPについて
木下知己（三菱総研）

11/21 エネルギー・ダイナミック・モデル
斉藤雄志（電力中研）

12/19 地域開発モデル 山内 昭（東洋大学），樋口 透（小樽商大），小島崇弘（土浦短大），宮沢信一郎（日大）

50年

1/16 班別討議 栗原宏文，長谷川文雄（清水建設），斉藤雄志

2/20 腎機能シミュレーション
本多中二，三島則比古（電通大）

3/20 SDによる医療システムの分析
板倉省吾（工業技術院）

2. 班の構成

本部会は49年5月に次の4班を設けた．

1. 日本におけるSDモデルの収集および整理
班長 島田俊郎
2. SDモデルの理論的研究 班長 栗原宏文
3. 社会的要因の数量化について
班長 亀山三郎（中大）
4. 他のOR手法とのドッキング
班長 斉藤雄志

各班それぞれ4，5名の班員により構成されている．第2班および第4班は班別討議のほか合同討議を行なってSDの基礎的な考え方をまとめる方向で検討中である．SDを何と定義したらよいかしばしば討論されているが，部会としてまだまとまっていない．班員の報告をもとに研究中の一つは，SDにfaces analysisを加えられないかという案である．あらかじめ定められた数項目を顔の要素として用い，各時点に顔形を画き出させて比較するという試みである（長谷川文雄）．第2は信頼性表示の案であるが，近来公害に対する関心の高まりとともに，企業モデル，地域モデルともに急増が考えられるので，SDの信頼度を高めるために，モデルの各部分に信

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

頼性に対する数段階の表示を考えようという試みである（斉藤雄志）.

第3班では，各モデル内に設定されている評価，魅力，効果等の変数を整理するとともに，そこに用いられる社会指標をまとめようとしている．同時にSDで従来ほとんど扱われていない予測値の信頼帯を研究中である.

3.　部会の運営

月例研究会は，毎月第3木曜18時～21時，明治大学大学院会議室で行なわれる．4月末登録会員数は約45名，亀山三郎，栗原宏文，木村　耕（電通大）が幹事であるが，郵便料金値上げを考え，年間郵送料500円を会員が負担することにしたので，会員の登録がえを行ないつつある.

現行4班の班別研究を続行することを部会の主方針とし，別に首都圏モデルのケース・スタディを1グループで計画している.

第1班は数名の会員に部会の事務局が加わり，国内のモデルについての資料集作製を目ざしているので，モデル開発者に論文のご寄贈を下記宛お願いしたく，企業等で詳細公表が困難の場合でもごく簡単な説明文でもいただければ幸いである.

〒101　東京都千代田区神田駿河台1－1
明治大学11号館研究室　SD研究部会
(Tel. 03-296-4423)
（島田俊郎宛）

支部だより

中国・四国支部

当支部は，昭和49年度より新支部長に柴田隆史氏（広島修道大学）を迎え，事務局を近畿大学から再び広島大学に移転して活動を続けている.

49年度の支部役員は，柴田支部長，青木兼一（広島大学），増田栄次（東洋工業）両副支部長以下支部評議員11名，支部監事2名，支部幹事8名で構成され，産業界と大学関係者が同数となっている．支部に属する地域が広範なためなるべく多くの地域で事業を開催するよう留意しているが，会員数との関係で必ずしも十分とはいえず，今後会員を増強し地域活動を充実させる必要があると考えられる．49年度のおもな活動は次のとおりである.

(1)　支部総会，支部役員会各1回
(2)　幹事会　5回
(3)　講演会　6回
　a)　49.3.12　東京大学　近藤次郎氏「大気汚染防止の諸問題」
　b)　49.6.12　ミシガン大学　Richard Pew氏「米国企業における人間工学の現状について」
　c)　49.6.14　松下通信　唐津　一氏「ORの定着と普及について」
　d)　49.7.11　早稲田大学　村松林太郎氏「事例を中心としたマネジメント・システム設計におけるシステム・エンジニアとシステム・マネジャーの役割」
　e)　49.11.21　早稲田大学　春日井博氏「在庫管理の問題点と展望」
　f)　50.2.7　田渕経営研究所　田渕政夫氏「創造工学における等価変換展開理論とその応用」
　　同　日　科学技術と経済の会　只野文哉氏「技術開発の見直しと効率化」

このうち，e）は本部の月例講演会として岡山地区で開催し，60余名参加者があり盛会であった．またf）は高松地区で開催した．残りは広島地区で開催した.

(4)　研究会　4回
　a)　49.3.15　広島大学　平木秀作「ライン生産システムの生産管理について」
　b)　49.7.25　松下通信　大谷正行，高松　征，及川繁峯氏「広島市の交通信号制御システムについて」
　c)　49.9.13　宇部興産　石田　甫氏「生産計画および予定原価計算へのインプット・アウトプットモデルの適用」
　d)　49.12.21　近畿大学　赤尾　守氏「呉市における廃棄物の現況と問題点」

昭和50年度の役員構成は前年度とほぼ同じであるが，活動をより充実させるため新たに支部評議員に2名，支部幹事に2名加わっていただいた．今年

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．